

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動障害性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 6,7限他	教室名	401教室
担 当 教 員	奥村正平	実務経験とその関連資格	急性期・回復期病院で勤めて17年となる。主に失語症・高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害患者に対する言語聴覚療法を行っている。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士 LSVT LOUD®認定講習修了			
《授業科目における学習内容》						
運動障害性構音障害の発生メカニズムと特徴を説明できる 発声発語器官の形態と機能を理解し、運動障害性構音障害患者に対して適切な検査やリハビリテーションを行うことができる 発話補助手段について理解し適切に利用できるようになる						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト100% (試験素点が60点以上を合格とする)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:藤田郁代 監修 《標準言語聴覚障害学》 発声発語障害学 (第3版) 西尾正輝 著 AMSD 標準ディサースリア検査 参考図書:荻安誠 著 神経原性発声発語障害 dysarthria 西尾正輝 著 ディサースリア臨床標準テキスト第2版						
《授業外における学習方法》						
・音声学について学び、正常の構音運動を理解することで、運動障害性構音障害について深まるため、復習しておく。 例)国際交流基金 著 音声を教える (国際交流基金日本語教授法シリーズ2) 山本一郎 監修 目で見る日本語音の産生 エレクトロパラグラフィ(EPG)を用いて ・日々の授業内容の復習						
《履修に当たっての留意点》						
学生同士で視診や触診を行うことがございます。 ご理解の上受講の程よろしくお願い申し上げます。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の概要を説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	言語聴覚障害概論を復習し、運動障害性構音障害と他の言語障害の違いを確認しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ー概論①ーを学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害が生じる神経学について説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する神経を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ー神経学的基盤①ーを学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害が生じる神経学について説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する神経を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ー神経学的基盤②ーを学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声発語器官の構造を説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する筋を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ー発声発語器官の構造①ーを学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声発語器官の構造を説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する筋を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ー発声発語器官の構造②ーを学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害のタイプの特徴を説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	神経系の機能・構造・病態を復習し、発声発語に関連する神経を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ―タイプとその特徴①―を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害のタイプの特徴を説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	神経系の機能・構造・病態を復習し、発声発語に関連する神経を理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の基礎 ―タイプとその特徴②―を学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	評価の概論を理解し適切な評価の選択が出来るようになる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	小テスト① 言語聴覚障害概論を復習し、評価の必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の評価 ―概論―を学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	AMSDを用いて正確に評価できるようになる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	言語聴覚障害概論を復習し、評価の必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の評価 ―様々な評価方法―を学ぶ		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	AMSDを用いて正確に評価できるようになる	・プロジェクター ・バイトブロック ・鼻息鏡 ・AMSDマニュアル ・テキスト ・配布資料	小テスト①の解説 AMSDのマニュアルの実施方法を一読し方法の理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の評価 ―AMSD①―を学ぶ		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	AMSD以外の評価方法について説明できる	・プロジェクター ・バイトブロック ・鼻息鏡 ・AMSDマニュアル ・テキスト ・配布資料	AMSDのマニュアルの実施方法を一読し方法の理解しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の評価 ―AMSD②―を学ぶ		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の治療についての概要を説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	言語聴覚障害概論を復習し、訓練の必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療 ―概論①―を学ぶ		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の治療についての概要を説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	言語聴覚障害概論を復習し、訓練の必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療 ―概論②―を学ぶ		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸や発声のメカニズムやアプローチについて説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、呼吸に関連する筋や神経を確認しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療 ―呼吸・発声へのアプローチ①―を学ぶ		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸・発声のメカニズムやアプローチについて説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、呼吸に関連する筋や神経を確認しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療 ―呼吸・発声へのアプローチ②―を学ぶ		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動障害性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 6,7限他	教室名	401教室
担 当 教 員	奥村正平	実務経験と その関連資格	急性期・回復期病院で勤めて17年となる。主に失語症・高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害患者に対する言語聴覚療法を行っている。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士 LSVT LOUD®認定講習修了			
《授業科目における学習内容》						
運動障害性構音障害の発生メカニズムと特徴を説明できる 発声発語器官の形態と機能を理解し、運動障害性構音障害患者に対して適切な検査やリハビリテーションを行うことができる 発話補助手段について理解し適切に利用できるようになる						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト100% (試験素点が60点以上を合格とする)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:藤田郁代 監修 《標準言語聴覚障害学》 発声発語障害学 (第3版) 西尾正輝 著 AMSD 標準ディサースリア検査 参考図書:荻安誠 著 神経原性発声発語障害 dysarthria 西尾正輝 著 ディサースリア臨床標準テキスト第2版						
《授業外における学習方法》						
・音声学について学び、正常の構音運動を理解することで、運動障害性構音障害について深まるため、復習しておく。 例)国際交流基金 著 音声を教える (国際交流基金日本語教授法シリーズ2) 山本一郎 監修 目で見える日本語音の産生 エレクトロブラグラフィ(EPG)を用いて ・日々の授業内容の復習						
《履修に当たっての留意点》						
学生同士で視診や触診を行うことがございます。 ご理解の上受講の程よろしくお願い申し上げます。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	口腔・顔面・舌機能に合わせたアプローチについて説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学、第5 回、第6回の授業内容を 復習し、発声に関連する 筋や神経を確認しておく
	各コマに おける 授業予定	運動障害性構音障害の治療 ー発声発語器官へのアプローチ①ーを学ぶ				
第17回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	口腔・顔面・舌機能に合わせたアプローチについて説明できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	解剖学、生理学、第5 回、第6回の授業内容を 復習し、発声に関連する 筋や神経を確認しておく
	各コマに おける 授業予定	運動障害性構音障害の治療 ー発声発語器官へのアプローチ②ーを学ぶ				
第18回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	構音の特徴を理解した構音訓練の立案が出来るようになる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	音声学、音響学、第17 回、18回の授業内容を 復習し、構音について復 習しておく
	各コマに おける 授業予定	運動障害性構音障害の治療 ー構音訓練①ーを学ぶ				
第19回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	構音の特徴を理解した構音訓練の立案が出来るようになる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	音声学、音響学、第17 回、18回の授業内容を 復習し、構音について復 習しておく
	各コマに おける 授業予定	運動障害性構音障害の治療 ー構音訓練②ーを学ぶ				
第20回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	補綴装置やAACを用いたコミュニケーション方法について説明 できる		・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	小テスト② 他科目でも学んだ補綴 装置やAACについて復 習し、運動障害性構音 障害との関連を確認して おく
	各コマに おける 授業予定	運動障害性構音障害の治療 ー補綴装置、拡大・代替コミュニ ケーション(AAC)のアプローチー学ぶ①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	補綴装置やAACを用いたコミュニケーション方法について説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	他科目でも学んだ補綴装置やAACについて復習し、運動障害性構音障害との関連を確認しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療－補綴装置、拡大・代替コミュニケーション(AAC)のアプローチ学ぶ②		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	チームアプローチについて説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	小テスト②の解説 言語聴覚障害概論を復習し、チームアプローチの必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療－チームアプローチを学ぶ①		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	チームアプローチについて説明できる	・プロジェクター ・テキスト ・配布資料	言語聴覚障害概論を復習し、チームアプローチの必要性などについて復習しておく
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の治療－チームアプローチを学ぶ②		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			